

上場セレモニー (右が石田社長)

7年前から証券代行機関選定をするなど、上場に向けて動き出しました。プロジェクトチームを作った本格的に取り組み始めたのは2年前位からです。当初予定していた市場を変更したため、計画を1年前倒ししました。

■上場にいたるプロセス

「上場」ということも目的です。私自身、設立当初から「加工」という分野で、大きく成長することを目指していましたので、上場はその一つの手段と言えるでしょう。当初は別の市場への上場を検討していたのですが、熱心に勧誘いただいたこと、また、地域の企業としての自負もあり、Q・Boardへの上場を決断しました。

■上場されて約2ヶ月経ちます。

株主からお問い合わせをいただくことはありましたが、わずか2ヶ月しか経っていませんので、特に変化はありません。今後、実感が出てくるかもしれませんね。

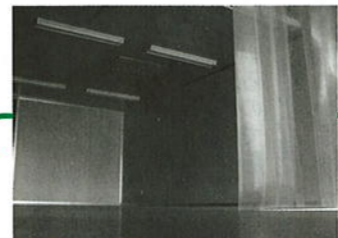
■今後の展望は――

九州を拠点に、関東・関西の大手企業からの受注を拡大したいと考えています。また、M&Aを視野に入れた事業展開も検討しています。いずれは、他証券取引所への上場も視野に入れています。上場企業として、今まで以上の社会的責任を果たさなければなりません。ただ当然、上場がゴールではありません。社名の由来でもある「加工」の持つ無限大の可能性を追求し、事業の幅を広げてまいります。今はその第一ステップです。

日創プロニティ(株)

昭和58年、日創工業(有)を設立。平成9年に株式会社組織変更し、本年4月に日創プロニティ(株)に商号変更。
新社名の「プロニティ」は、加工(プロセッシング)、前進(プログレス)、無限(インフィニティ)の3つのキーワードを融合させた造語で、「加工」の2文字を持つ無限大の可能性を追求してあくなき前進を続け、多様化するお客様のニーズに的確にこたえていくというメッセージを込めたもの。
▽平成18年8月期 売上高22億5000万円、経常利益2億4000万円
▽上場日/平成19年8月8日
▼本社/福岡市南区向野1-15-29 ▼資本金/2億9500万円
▼従業員/101名 ▼主幹事証券/三菱UFJ証券

クリーンルームパネル



液晶生産ライン用軽量パネル



自動車塗装ライン用特殊パネル

手掛ける製品の一部



日創プロニティ(株) 代表取締役社長 石田 利幸氏

今年で25周年。これまで永く続いた不景気や、近年の原材料高、苦勞も多いのでは――
常に先行き不安感を抱きつつも、新たな加工分野を求めて事業を営んできました。当社では、リスク回避の観点から、特定の業界・会社に依存しないよう

Q・Board上場の動機は――
設計、材料の調達から塗装までの一貫した「オールインワン加工」システムにより、一層の納期の短縮やコスト削減を目指す当社にとって、上場は、最新設備などの新工場建設の設備資金の調達に大きなメリットとなると考えました。また、知名度・イメージアップ、ひいては優秀な人材の確保につなげ

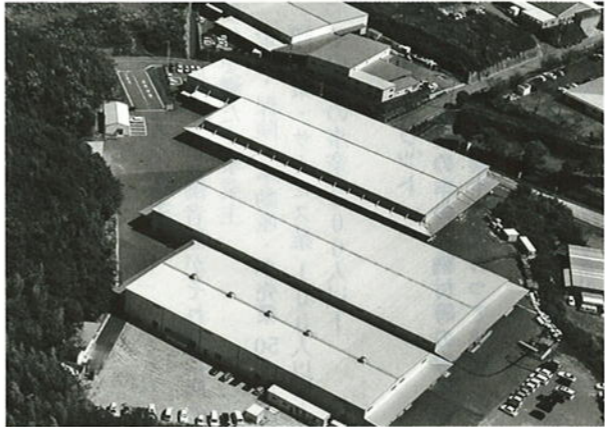
Q・Board上場の動機は――
設計、材料の調達から塗装までの一貫した「オールインワン加工」システムにより、一層の納期の短縮やコスト削減を目指す当社にとって、上場は、最新設備などの新工場建設の設備資金の調達に大きなメリットとなると考えました。また、知名度・イメージアップ、ひいては優秀な人材の確保につなげ

平成19年3月号特集
新規株式公開への道
フォロー企画

Q・Board 上場への道 日創プロニティ株式会社

独自の経営方針と成長、
上場という選択、そしてこれから

■今年の8月8日、福岡証券取引所Q・Boardへの上場を果たされました。10社目にして初の製造業です。
当社は「加工のデパート」を標榜し、企画品からオーダー品まで、あらゆる種類の薄板加工を行っています。例えば、屋根や壁材などの建材製品や立体駐車場資材、ドア・パネル製品、工場のクリーンルーム用パ



工場外観 (福岡県嘉麻市)